

- 1月18日(水) 18時 「ムジカ」で開催  
審議事項
1. アースデー「ぶっく・デ・アース」について  
大塚でのバラ植樹活動への寄付とする
  2. 新クラブ設立に対する意見書について
  3. 台北東海ロータリークラブとの交流について  
4月27日(木) 前夜祭、28日(金) 創立28周年記念式典
  4. 交換留学生について  
今後の対応について、地区と調整しながら進める。
  5. その他  
週報作成の体制について検討する。

☆出席規定適用者数 28名  
★本日の出席者総数 24名  
★〃 免除者出席数 5名  
★本日の出席率 72.72%

☆本日のゲスト

蔡 明耀氏 (台湾副大使)  
林 玲玉氏 (台湾副大使令夫人)  
林 育徳氏 (会長/台北東海RC)  
黄 佑平氏 (国際奉仕/台北東海RC)  
洪 裕超氏 (台北東海RC)  
范 育仁氏 (台北東海RC)  
林 俊宏氏 (PP/台北東海RC)  
陳 彦勳氏 (PP/台北東海RC)  
莊 月清氏 (PP/台北東海RC)  
平谷場 健治氏 (莊月清ご子息)  
陳 怡秦氏 (交換留学生/台北蓬萊RC)  
笹田 優一氏 (東京池袋豊島東NEXTロータリー衛星クラブ)  
阪口 章吾氏 (東京池袋豊島東NEXTロータリー衛星クラブ)  
豊澤 大夢氏 (会長エレクト/東京池袋豊島東ローターアクトクラブ)  
小泉 敦子氏 (小泉会長令夫人)  
浅原 洋子氏 (浅原会員令夫人)  
池田 祐二氏 (佐藤(美)会員ゲスト)  
王 登賢氏 (王会員同夫君)  
蔡 尹貞氏 (王会員ゲスト)  
宮部 美保子氏 (宮部会員令夫人)  
村上 靖子氏 (村上会員令夫人)  
葛西 智恵子氏 (村上会員ゲスト)  
本橋 ハマ子氏 (村上会員ゲスト)  
細田 悌治氏 (細田会員同夫君)  
新井 秀子氏 (廣内会員ゲスト)  
横山 佳子氏 (横山会員令夫人)  
菅 正道氏 (ホストファミリー)  
菅 朋子氏 (ホストファミリー)  
菅 創志氏 (ホストファミリー)  
山元 美代氏 (山元会員令夫人/ホストファミリー)  
山元 宏樹氏 (ホストファミリー)  
山元 恵理氏 (ホストファミリー)  
レン・ホーウィング (米山奨学生)  
イサベラ マリン (青少年交換留学生)

## 1月12日卓話報告

### 宝井琴星 講談「山内一豊の妻」

織田信長が岐阜城主であった1574(天正)年のこと。城下で開かれた馬市で素晴らしい馬を見かけた若侍、値が金十枚ではとても手が出ない。この男は、信長の家臣、山内一豊である。すごすごと帰宅し、妻の千代に話をすると、千代は嫁入り道具の鏡を持ち出して、・・・という内助の功の出世話。新春に相応しいお目出たい演目であった。

#### 卓話講師のご紹介

日本の伝統話芸 講談師  
宝井 琴星 師匠  
講談協会理事兼事務局長  
日本演芸家連合理事  
宝井講談修羅場塾塾長



古典だけではなく、多数の新作を発表、新作には時代物から現代社会の世相を反映したものまで幅広い。弟子に、宝井琴鶴。

## 12月15日例会報告

司会 加古会員  
開会点鐘 小泉会長  
赤鼻のトナカイ・ロータリーソング  
ソングリーダー 廣内会員

☆会員総数 38名

## 前回の例会

1月12日(木) 12:30~13:30

新春例会

卓話:「山内一豊の妻」

卓話者:宝井 琴星師匠

## ニコニコ

台北東海RC コロナ期間中になかなか親睦を深める事が叶いませんでしたが、両クラブの記念すべき再締結の日を楽しく過ごせました。4月に台湾にてお待ちしております。

小泉君 台湾副大使ご夫妻、台北東海RCの皆様、ご来訪いただき、ありがとうございます。

石川君 台湾副大使、台北東海RCの皆様、ようこそお越しいただきました。心より歓迎申し上げます。池袋の夜を楽しんで下さい。

山元君 お招きありがとうございます。チャーターメンバーだった主人も3年前に他界しました。今回息子夫婦が2回留学生を受け入れました。何とか大変だったと思いましたが勉強になったと思います。気持ちですがニコニコに入れてさせて頂きます。

本日の合計額: 50,000円

今年度ニコニコ累計額: 434,725円

## 会長報告

第17回例会(2022.12.15) 忘年家族会

①次年度理事、役員、次々年度会長候補者の名簿を公示した

②・ロータリー米山記念奨学会より、宮代会員へ第12回メジャードナー感謝状のお渡し  
・バギオ基金より横山会員、当クラブへ感謝状のお渡し

江戸時代は、幕府によりキリスト禁が禁止されたため、クリスマスを祝うことはなかった。長崎出

島のオランダ商館では、代わりに「おらんだ冬至」を開催しクリスマスを祝った。やがて、太陽暦(グレゴリオ暦)による正月元日を「おらんだ正月」として祝うようになった。

さて、蘭学者の大槻玄沢は江戸にある私塾の芝蘭堂で、寛政6年(1794年) 閏11月11日が1795年1月1日に当たるので、「おらんだ正月」に新元会(元日の祝宴)を開催した。これは『芝蘭堂新元会図』として描かれている。大きな机にフォークとナイフ、ワイングラスが置かれ、部屋には洋画が飾られ、玄沢の師である杉田玄白や、玄沢の弟子の宇田川玄随、稲村三伯など28名が参加した。なお玄白は『解体新書』の翻訳で有名であるが、大槻玄沢は蘭学の入門書『蘭学階梯』を、宇田川玄随は『西説内科撰要』を、稲村三伯は蘭日辞書である『ハルマ和解』を著した人物である。

本日は、年末家族会であるが、江戸時代ならば「おらんだ冬至」に当たる。

## 幹事報告

1. 2025-26年度ガバナー(ガバナーノミニージェジグネート) 中川雅雄君に決定

## 1月お祝い

会員誕生日	宮代 昌三
	野口 昇兵
	浅原 英明
	榎本 稔
	鴨田 和恵
皆出席(年)	26 小林 征夫
	14 加古 博昭
	4 小泉 博明
	33 宮部 一弘